

たとえリセットされても

## 互いの未来のために

5年 Y・Tさん

ぼくが一番驚いたことは、愛ちゃん自身が自分をロボットだと知らなかったことだ。

それなら、実はぼくもロボットだったらどうしようかと怖くなった。けれど、愛ちゃんは問題集を見ただけで理解できることを思い出し、ああ、ぼくは人間なんだなと安心した。

愛ちゃんだって、最初にロボットだと伝えていれば余計な詮索はしないし、もっと純粋に仲良くできたのではないだろうか。

もちろん、ロボットだから出来て当然とか、無下にしてもいいというような偏見の気持ちはなくしていかなくてはいけないと思う。

それでも、人間の社会の中にひっそりとロボットが混ざっているのは怖い。外来種が少しずつ固有種を侵食していくような恐ろしさを感じ、ロボットに嫌悪感を抱いてしまふ。

けれどもこれからの未来、ロボットはとても大切で共存しなくてはならないと思う。

たとえばロボットの先生がいて、クラス全員が同時に違う質問をしても一瞬で答えてくれたりしたら、次はどんなすごいことがあるのかと、学校に行くのが楽しくなりそうだ。

けれど先生がロボットであることを隠していたら、人間離れていることが不安で、学校に行きたくなってしまうかもしれない。

要するに、お互いにまだ相手をよく知らないのだから、かくしごとをせずに、少しずつ理解して、みとめ合っていくべきだと思う。

この本の参考文献の著者である石黒先生が、アンドロイドを知るために、人間とはなにかを知るべきだと話している記事を読んだ。

先生が自身とそっくりなアンドロイドを作る際、髪分け目一つとっても自分自身に対して気付いていないことが多く、まずはよく自分を知るべきだという話に感銘を受けた。

ぼくはロボットについてなにも知らないということが分かった。けれど今、この本をきっかけに、ロボットをもっと知りたいと思った。

お互いが幸せになる未来のため、自分自身を知るため、もっと見聞を広げていきたい。